

### ③ 実績配慮型(評価対象期間拡大)の試行拡大について (1/2)

#### 1. 見直しの背景

##### ○配置予定技術者の評価の課題

- 評価対象期間が全工種一律で設定されている  
(施工実績:15年間、工事成績:5年間、表彰:10年間)
- 工種ごとの発注件数に大きな偏りがある(図1)
- 発注件数が少ない工種は、実績の取得機会が限られるため、実績持ち企業に受注が偏る恐れがある

業種	対象業者数(特定)			5年間		10年間		15年間	
	ランク	総合数値	業者数	実績件数	1社平均	実績件数	1社平均	実績件数	1社平均
土木一式	A	900~	172	2,540	14.8	4,791	27.9	7,383	42.9
とび・土・コン(吹付)	-	750~	38	794	20.9	1,568	41.3	2,421	63.7
舗装	A	900~	33	1,020	30.9	2,053	62.2	3,365	102.0
建築一式 ※1	A	-	87	140	1.6	253	2.9	407	4.7
電気	A	800~	58	216	3.7	397	6.8	577	9.9
管	A	800~	64	105	1.6	190	3.0	279	4.4
鋼構造物(浮桟橋)	-	500~	9	115	12.8	216	24.0	340	37.8
しゅんせ	-	800~	11	45	4.1	69	6.3	105	9.5
塗装 ※2	-	800~	36	112	3.1	203	5.6	341	9.5
機械器具設置	-	800~	8	46	5.8	56	7.0	76	9.5
電気通信	-	700~	28	174	6.2	318	11.4	480	17.1

※1建築一式は主観点20点以上を抽出 ※2塗装は、平均完工高10,000千円以上を抽出

図1 配置予定技術者の評価(長崎県の工事成績評定対象工事の件数)

##### ○実績配慮型の試行

- 令和6年度の営繕課発注の工事(建築一式工事、電気工事、管工事)を対象に、**配置予定技術者の評価対象期間を拡大**して評価する試行工事を実施した
  - 配置予定技術者の工事成績評定 5力年度⇒**15力年度**
  - 配置予定技術者の表彰(現場技術者) 10力年度⇒**15力年度**

#### 2. 入札(試行)結果

- 「実績配慮型」について、9月までに5件が実施(試行)された
  - 全入札参加者15者中、**現行の評価対象期間を超えて入札参加した企業が4者あり、そのうち2者が受注した**
  - 4社のうち10年を超えた実績で参加した企業は1者

評価対象期間を拡大したことで**企業の参加意欲が向上**したものと推測される

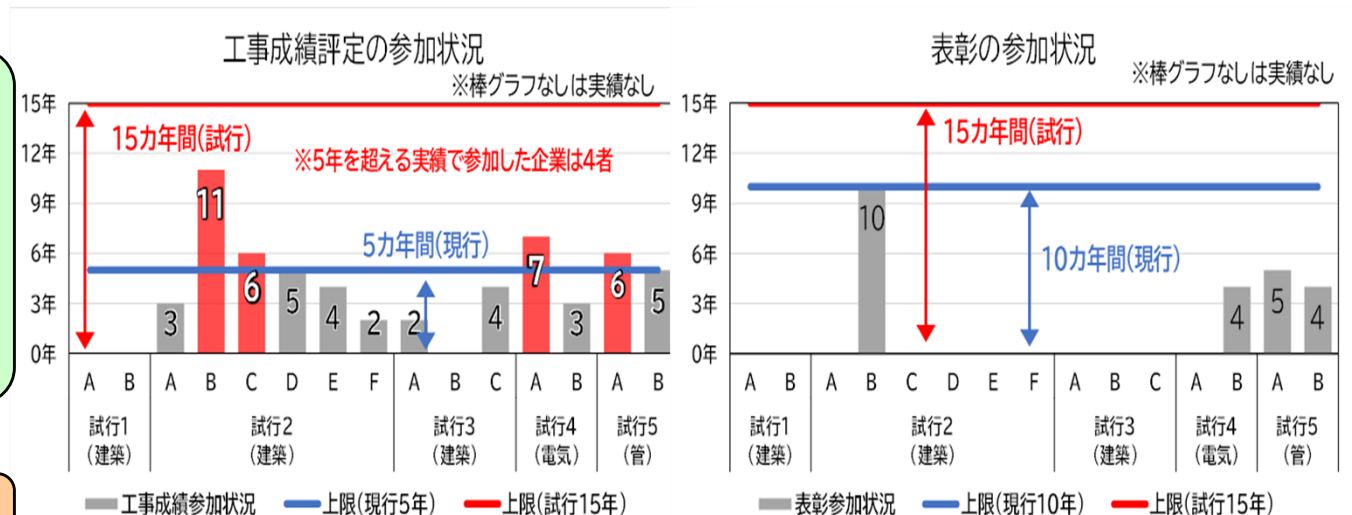


図2 実績配慮型の入札参加状況(配置予定技術者の評価)

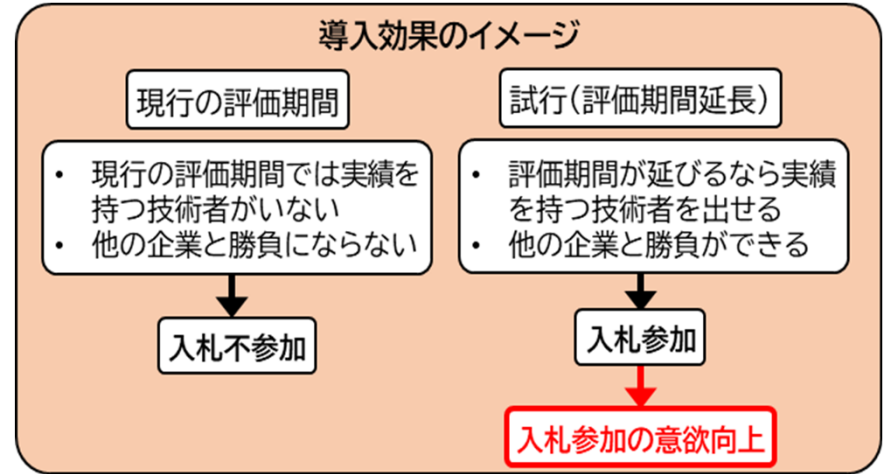
### ③ 実績配慮型(評価対象期間拡大)の試行拡大について (2/2)

#### 3. 入札結果(まとめ)

- 工事成績評価については、実績を有しない技術者の参加もあったが、現行の5年(上限)より以前の「勝負できる実績」で参加する企業が確認できた
- このことから、企業の入札参加意欲向上のためにも、評価対象期間の拡大は有効であったと思われる

#### 4. 令和7年度の方針(実績配慮型の試行拡大)

- 令和7年度は、実績配慮型の試行を行っている3工種に加えて、入札参加者数が少ない3工種を試行工事に追加する(平均参加者3者以下を対象)
- R6試行中: 建築一式、電気(営繕)、管
- R7導入 : 鋼構造物、塗装、建築解体



対象期間拡大は一定の効果あり

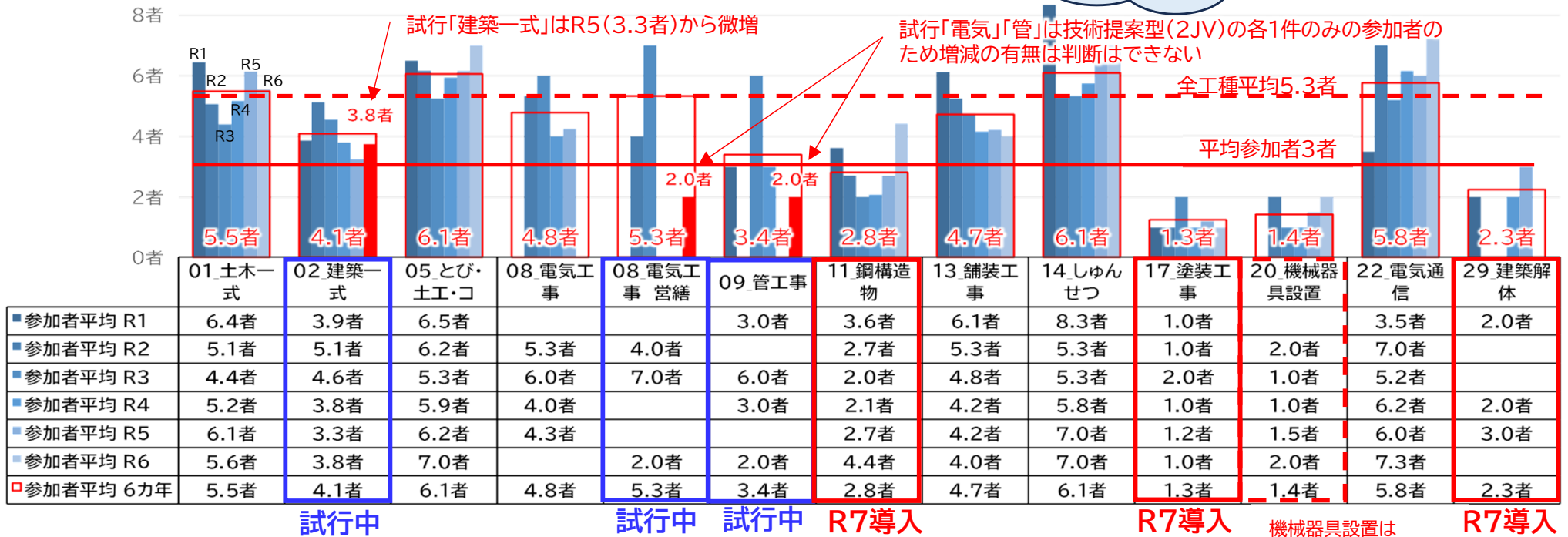


図3 工種ごとの平均入札参加者数

機械器具設置は実績配慮型の評価項目がなく、改正の対象外